

賢けんを尚たつとばざれば、民たみをして争あらしわざらしむ。得え難がたきの貨かを貴たつとばざれば、民たみをして盗ぬすみを為なさざらしむ。欲ほつする所ところを見しめさざれば、民たみの心こころをして乱みだれざらしむ。是こころを以もつて聖人せいじんの治ちは、其こころの心こころを虚むなしくして、その腹はらを实みたし、其その志のぞみを弱よわくして、其その骨ほねを強つよくす。常つねに民たみをして無知無欲むちむよくならしめ、夫かの知者ちしやをして敢あえて為なさざらしむ。無為むいを為なせば、則すなわち治おさまらざる無なし。

【大体の意味内容】為政者が、小賢しい利口者を尊重するということをやめれば、人民が学歴競争をしなくなるだろう。手に入りにくい貨を貴重品扱いしなければ、人民は盗みをしなくなるだろう。欲望を刺激するものを見なければ、人民の心は乱れたりしないだろう。是ゆえに聖人の政治は、人民の心を賢しらな知識や偏見でいっぱいにならないよう、空虚にしよう。どのようなことも明晰に見通せるようにする。そして度胸・冷静さや活力の源である腹を、ずしつと満たせるようにする。実質の伴わない意志だの志望だのはむしろ弱くし、血を造りだす骨髄や身体を支える骨を強くする。(そもそも心身二元論が虚構であり、心身一元が本来なのだから。)こうして常に人民が、その頭をくだらない知識でいっぱいにしてしまわないように、欲望に支配されないようにする。そうすることが、あの知恵者たちが人民を家畜の様に支配コントロールするのを防ぐ道なのだ。(たくさんの知識を与えられて、かえってある種の考え方に知らず知らず服従させられてしまったり、様々な欲求を満たす方法を与えられてそれをみんなで享受することに幸せを感じてしまう。しかしそれこそが、我々人民を家畜の様に調教しコントロールしようとする為政者の狙いかもしれない。)賢しらな行為に支配されな

い「無為」を為せば、万事、本来あるべき様に物事が治まってゆくのだ。

現在私たちが「常識だ」「素晴らしい」「守らなければならぬ」「もっと広めなければならぬ」と信じていることが、ほんとうにそうなのか、疑ってみる必要があります。もしかすると誰かにとって都合のよいように、信じ込まされていただけかもしれないからです。未来において、「平成時代に生きていた連中は、バカばかりだな、あんなこと素晴らしいと信じ込んでしまった」「と思われるかもしれない。もちろん現代の常識をすべて否定するべきというだけではありません。自分の信念をそう簡単にとは変える必要もありません。でも同時に、別の価値観や立場から見たらどうなるだろうかという柔軟な見、備えておいた方がよいでしょう。